

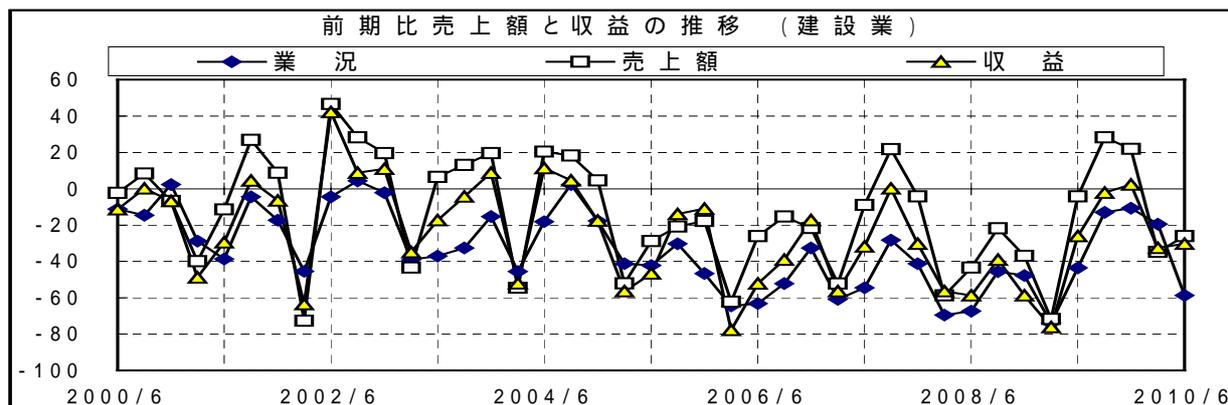
建設業 46 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-10.8	-19.5	-58.7	-32.6
売上額	21.8	-34.8	-26.1	10.9
収益	2.2	-32.6	-30.4	-4.4

今期の業況判断DI値は 58.7 と、前期比マイナス値が 39.2 ポイント拡大し 2 期連続悪化、5 業種中最も低い水準となった。地区別にみると、全地区で悪化している。

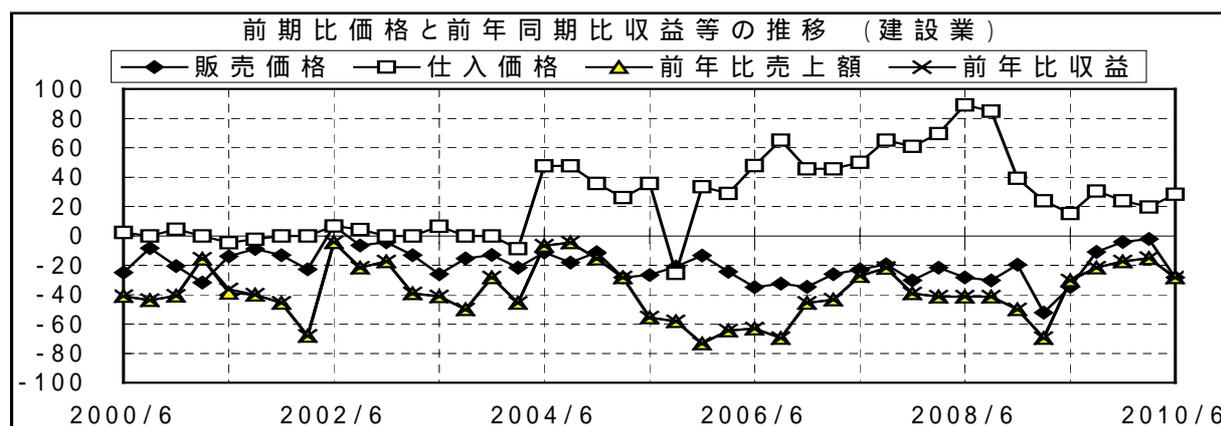
売上額、収益判断DI値は、売上額が 26.1、収益が 30.4 と、前期比それぞれマイナス値が縮小し 8.7、2.2 ポイント上昇した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
請負価格	-4.2	-2.2	-28.3	-13.0
仕入価格	23.9	19.6	28.3	28.2

請負価格判断DI値(28.3)は、前期比マイナス値が拡大し 26.1 ポイント低下、価格低下基調を強めている。仕入価格判断DI値(28.3)は、前期比プラス値が拡大し 8.7 ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	0.0	-0.1	-39.1	-2.1
人手状況	-19.6	0.0	21.7	-4.3

残業時間判断DI値は 39.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 39.0 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 21.7 と、前期比ゼロからプラス値に転じ 21.7 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

設備投資の動き

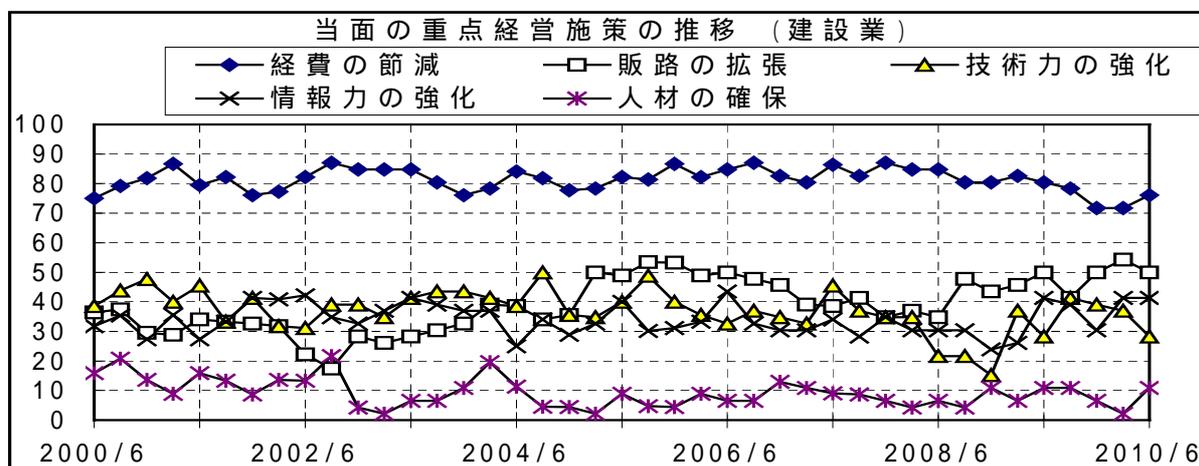
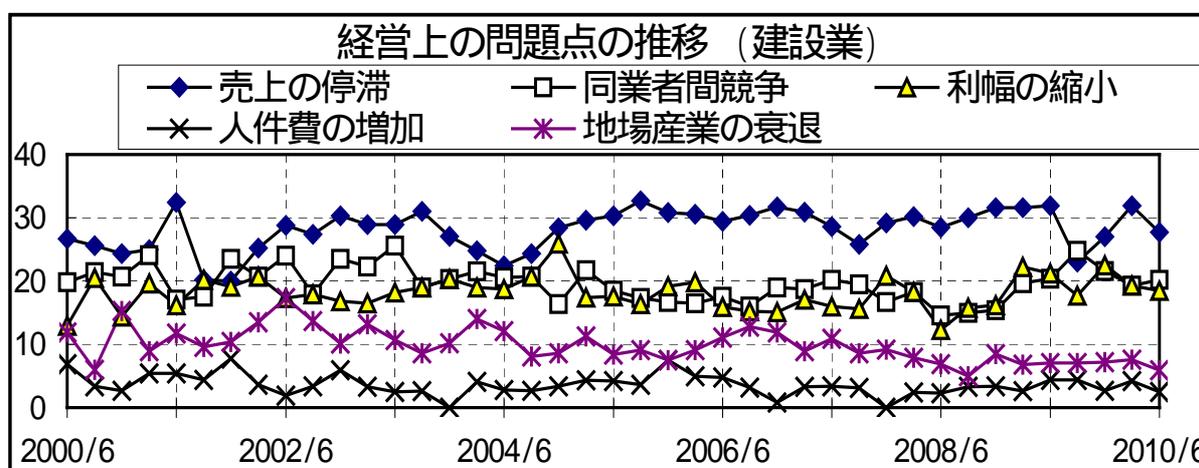
設備投資の充足感を示すD I値は 13.0 と、前期(2.1)のマイナスからプラス値に転じ 15.1 ポイント上昇、過剰感を強める一方、適正と回答した企業は 78.4%と、前期(80.5%)から 2.1 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 17.4%と、前期(21.7%)比 4.3 ポイント低下、件数で前期の 10社に対し 8 社の実施となった。来期予定は当期比 3 社減の 5 社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 27.7%、次いで「同業者間との競合」20.2%、「利幅の縮小」18.5%、「地場産業の衰退」、「材料価格の上昇」5.9%の順に続き、前期との比較では「材料価格の上昇」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業が「売上の停滞」、設備工事業が「売上の停滞」、「同業者間との競合」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 76.1%、次いで「販路を広げる」50.0%、「情報力の強化」41.3%、「技術力を強化する」28.3%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(平成 22 年 7~9 月期)の予想業況判断D I値は 32.6 と、今期(58.7)実績比 26.1 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、今期実績比売上額が 10.9(今期 26.1)と、マイナスからプラス値に転じ、収益が 4.4(今期 30.4)と、マイナス値が縮小し、それぞれ 37.0、26.0 ポイント上昇見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I値は、請負価格が 13.0(今期 28.3)と、今期実績比マイナス値が縮小し 15.3 ポイント上昇、価格低下基調が弱まる一方、仕入価格は 28.2(今期 28.3)と、プラス値が 0.1 ポイント極僅か低下、今期実績比ほぼ横ばいの上昇基調見通しとなっている。

卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

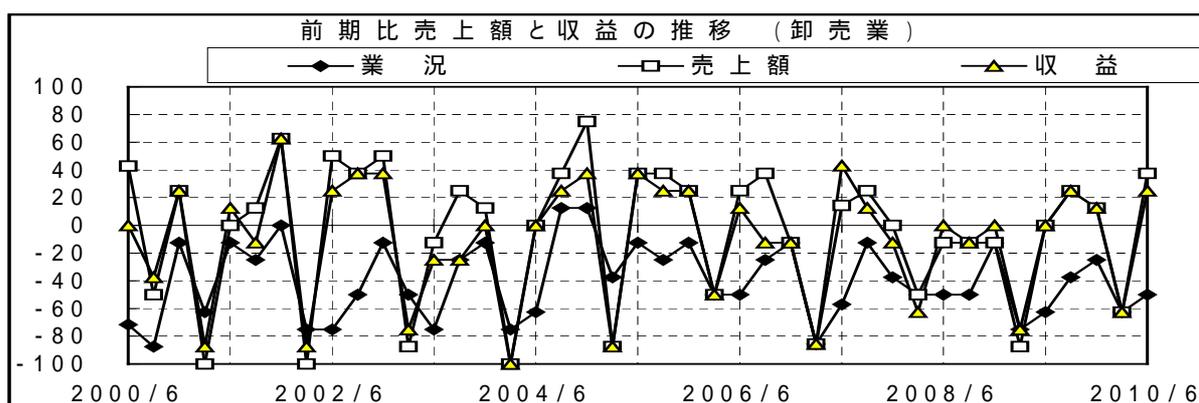
景況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業況	-25.0	-62.5	-50.0	-25.0
売上額	12.5	-62.5	37.5	12.5
収益	12.5	-62.5	25.0	12.5

今期の業況判断DI値は 50.0 と、前期比マイナス値が縮小し 12.5 ポイントの改善となった。地区別にみると、三石地区が改善し、浦河、静内、様似地区が横ばいとなっている。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 37.5、収益が 25.0 と、前期比それぞれマイナスからプラス値に転じ 100.0、87.5 ポイント大きく上昇した。

した。

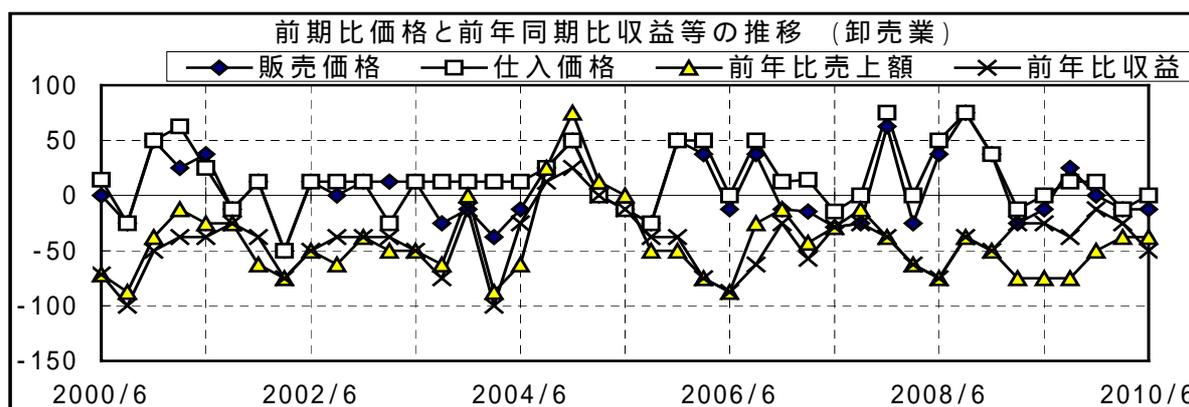


価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	0.0	-12.5	-12.5	-25.0
仕入価格	12.5	-12.5	0.0	-12.5

販売価格判断DI値(12.5)は、前期比横ばいの価格低下基調となっている。仕入価格判断DI値(0.0)は、前期比価格低下基調を弱めマイナスからゼロ値に転じ 12.5 ポイント上昇した。業種別にみると、農林・水産が販売、仕入価格ともに上昇、

食品が販売価格で低下、仕入価格で横ばいとなっている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	12.5	-12.5	-25.0	-12.5
人手状況	-12.5	25.0	0.0	-12.5

残業時間判断DI値は 25.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 12.5 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 0.0 と、前期比プラスからゼロ値に転じ 25.0 ポイント低下、過不足感なく適正化している。

設備投資の動き

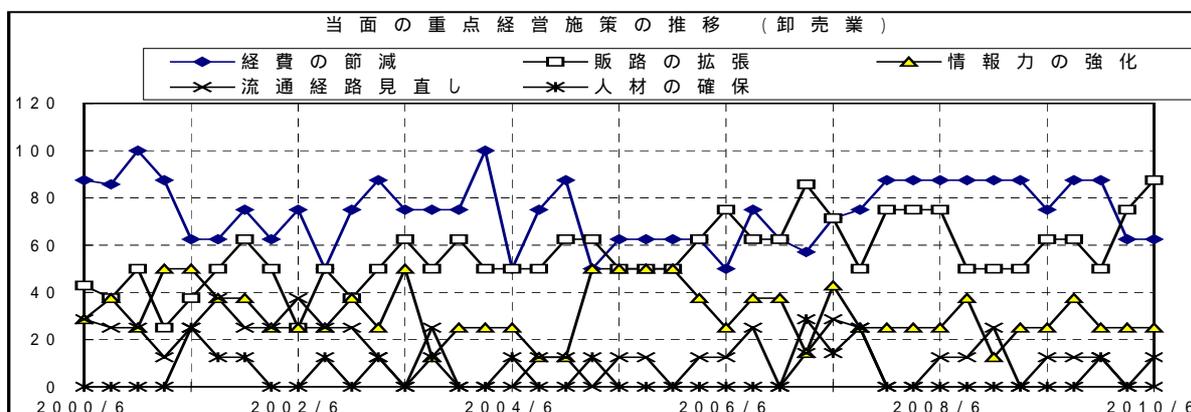
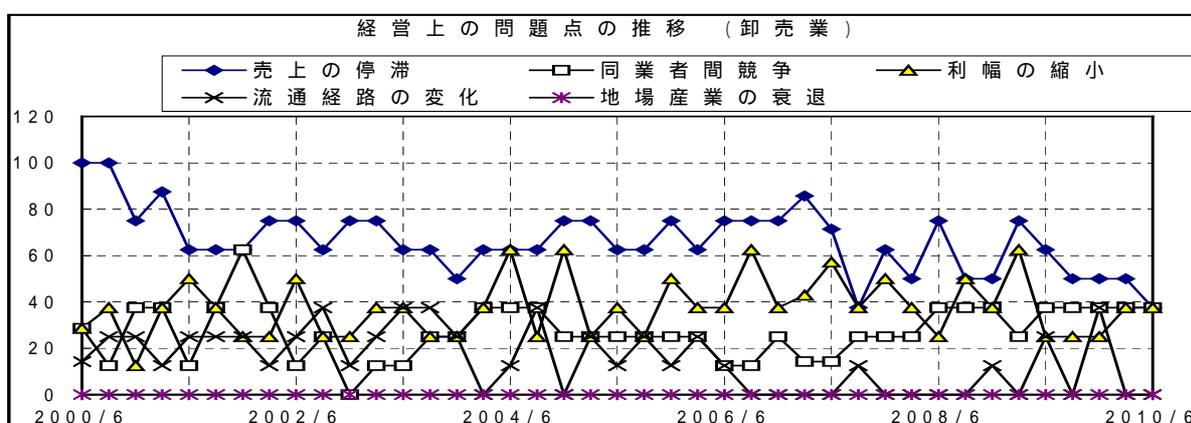
設備投資の充足感を示すD I値は12.5と、前期(12.5)比横ばいの過剰感を示し、適正と回答した企業もまた87.5%と、前期(87.5%)比横ばいとなった。

設備投資実施企業割合は0.0%と、前期2社の実施に対しゼロとなった。来期予定は当期比1社増の1社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」、「同業者間との競合」、「利幅の縮小」をトップに挙げ37.5%、次いで「取引先の減少」「値下げの要請」25.0%の順に続き、前期との比較では「値下げの要請」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産が「売上の停滞」、「同業者間との競合」、食品が「利幅の縮小」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「販路を広げる」をトップに挙げ87.5%、次いで「経費の節減」62.5%、「情報力の強化」、「新事業を始める」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産が「販路を広げる」、「経費の節減」、食品が「販路を広げる」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(平成22年7~9月期)の予想業況判断D I値は25.0と、今期(50.0)実績比25.0ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が12.5(今期37.5)、収益が12.5(今期25.0)と、今期実績比それぞれプラス値が縮小し25.0、12.5ポイント低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が25.0(今期12.5)と、今期実績比マイナス値が拡大し12.5ポイント低下、仕入価格が12.5(今期0.0)と、ゼロからマイナス値に転じ12.5ポイント低下、それぞれ価格低下基調が強まる見通しとなっている。